

「投資信託の販売会社における比較可能な共有KPI」 GAIA実績のご報告

2018年6月末、金融庁より公表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」について、2019年3月末時点の実績をご報告いたします。

・代表メッセージ

GAIAでは2017年6月にフィデューシャリー・デューティ宣言（FD宣言）を公表し、毎年自社の取り組みの結果をモニタリングしております。その一環として「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」を金融商品仲介業者として今年も公表いたします。

共通KPIについては、それぞれの金融機関の数字が比較できるようになっており、当社では投資信託と、当社向けのオリジナルラップ商品であるGMA（楽天証券株式会社提供）の「運用損益別顧客比率」を掲載いたします。また私自身がこの「比較可能な共通KPI」の他に特に重要視している指標が「口座開設年度別の損益状況」になります。私達はお客さまのリスク許容度に見合ったポートフォリオをご提案しており、それを継続していただければ長期的にプラスのリターンを取っていただけると考えております。

引き続き、GAIAでは長期分散投資を継続していただけるようしっかりとお客さまに寄り添い、また透明性を担保するためにも客観的な指標を今後も開示して参ります。

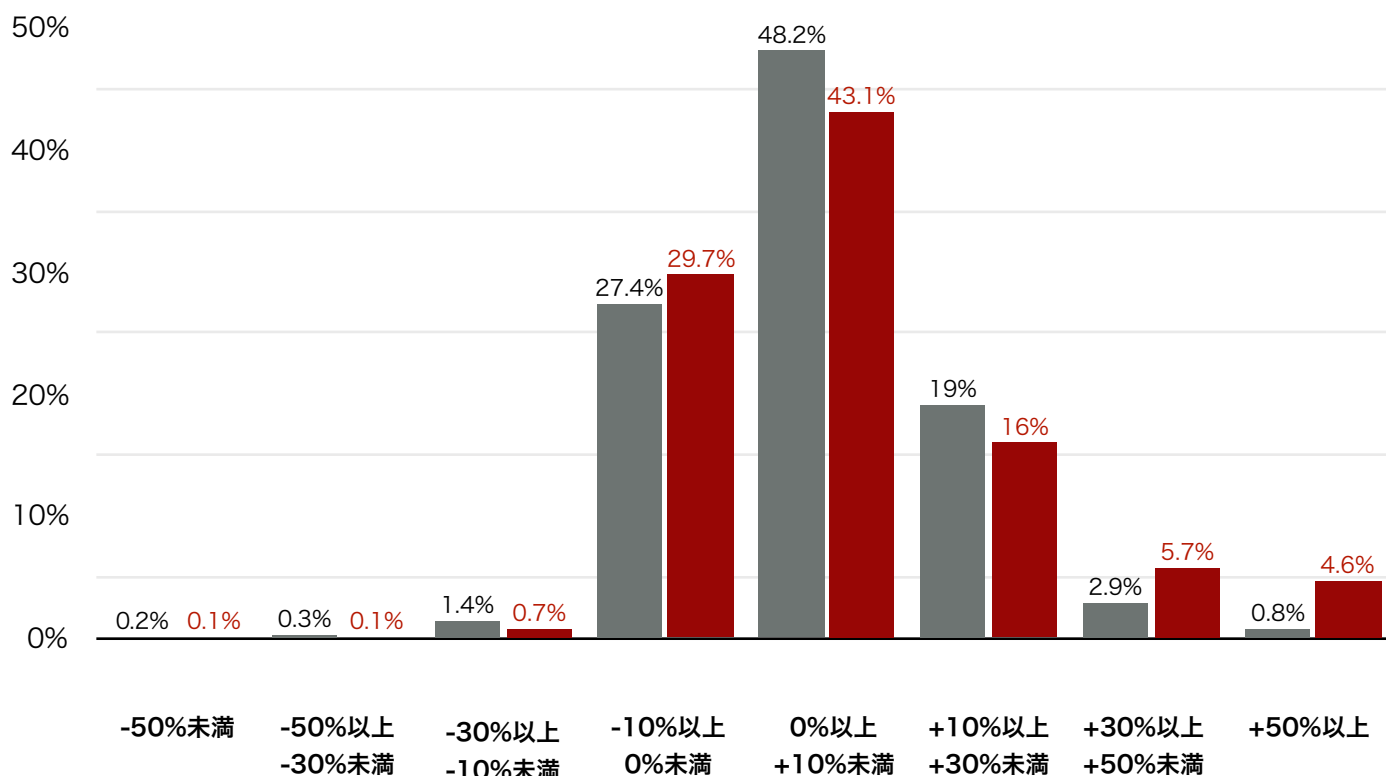
GAIA株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 中桐 啓貴

中桐 啓貴

項目	ページ
1.代表メッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.運用損益別顧客比率（投資信託 + GMA）・・・・・・・・	2
3.運用損益別顧客比率（GMA）、運用損益別顧客比率（投資信託）・・・・・・・・	3
4.口座開設年度別の損益状況（2019年3月末）、総評・・・・・・・・	4

表①運用損益別顧客比率（投資信託 + GMA）

■ 2019年3月 ■ 2018年3月



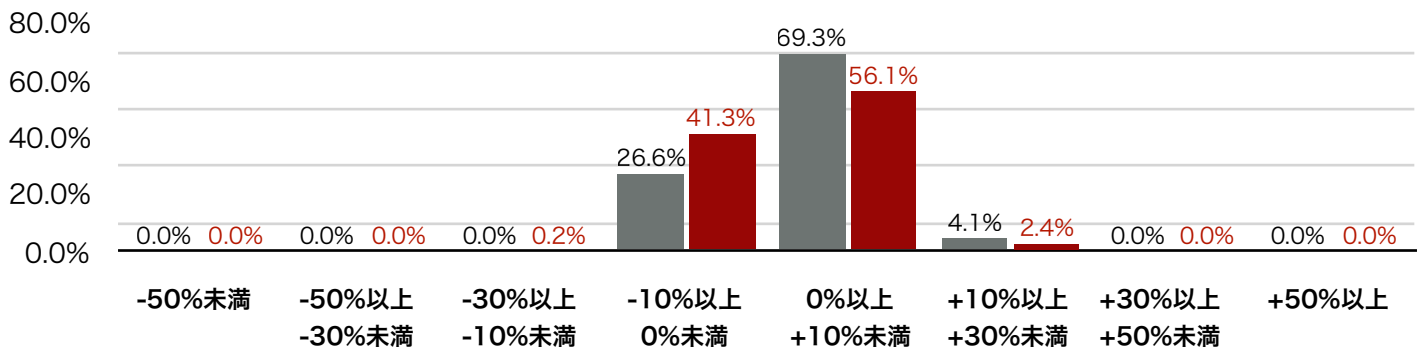
▶ 評価・解説

表1は投資信託もしくはGMAをお持ちいただいているお客さまの損益別分布状況であり、プラスとなっているお客さまの比率は2019年3月末時点で69.4%と2018年3月末時点の70.9%から低下いたしました。

低下した最大の要因は、2018年度終盤にかけての株式市場の大幅な下落により2018年3月末から2019年3月末までのGMAの運用成果が固定報酬控除前では0.30%~0.68%（運用コースによって異なります）となりましたが、年率1.404%（税込み・固定報酬型）の固定報酬控除後では-1.10%~-0.72%となったためであります。

表②運用損益別顧客比率 (GMA)

■ 2019年3月 ■ 2018年3月

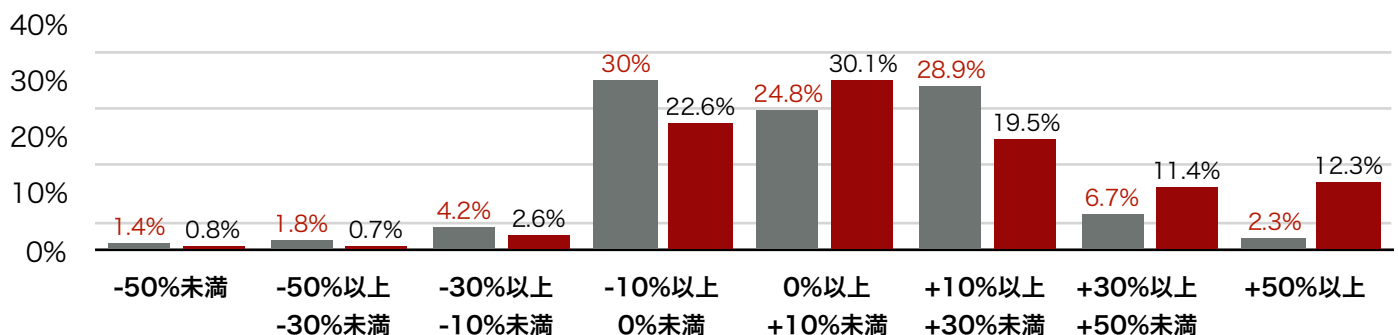


▶ 評価・解説

表2はGMAをお持ちいただいているお客さまの損益別分布状況であり、プラス比率が前年の73.4%から58.5%と大きく低下していますが、上述の通り、GMAの運用成果が悪化したことに加えて、2018年以降に口座開設していただいたお客さまの増加もプラス比率が低下した一因となっております。（2018年に口座開設していただいたお客様数は205名、プラス比率は19%となり、GMA全体の口座数840件に対しまして、全体の口座数の24%を占めております。）

表③運用損益別顧客比率 (投資信託)

■ 2019年3月 ■ 2018年3月

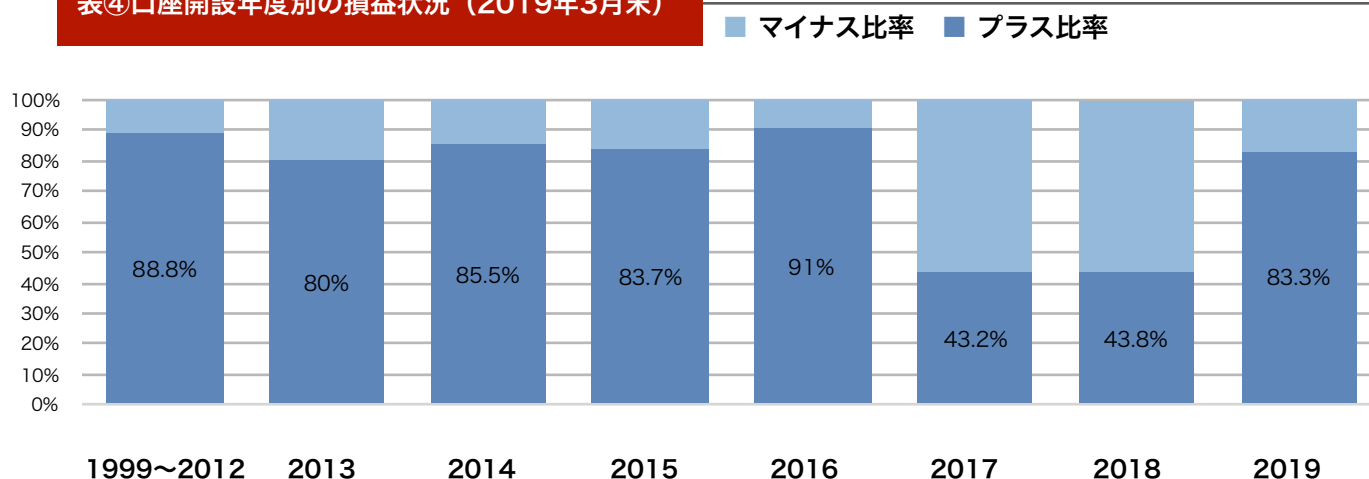


▶ 評価・解説

表3の投信をお持ちいただいているお客さまの損益分布では、プラス比率が73.3%と前年の62.7%から上昇いたしました。インカムファンドで2018年7月に設定された楽天・インカム戦略ポートフォリオ（みのたけ）やサテライトファンド（※）の次世代通信関連世界株式戦略ファンド（5G）等が堅調に推移したことや、積立投資を行っているお客さまの損益率改善等がその要因と推測されます。

（※コアとなる資産とは別にサテライトとして一部資金を運用することを推奨するファンド）

表④口座開設年度別の損益状況（2019年3月末）



▶ 評価・解説

表4は口座開設年別の損益状況となります。

2016年までに口座開設していただいた（投資期間3年以上）のお客さまのプラス比率は86.7%と前年の82.2%から上昇いたしました。2017年以降に口座開設いただいたお客さまのプラス比率は低下いたしましたが、それ以外の全ての年のプラス比率が上昇しています。短期的な運用成果は投資タイミングに左右されますが、中長期で運用いただいているお客さまは、2018年の株式市場の下落等の局面においても、保有継続だけではなく、追加的にリスクをお取りいただけたことが、改善につながったと思われます。

・ 総評

GMAの2019年1-3月の運用成果は、殆どのコースで四半期では過去最高となりましたが、2018年10-12月のマイナスを相殺するには至らなかったことが、2019年3月時点での共通KPIの悪化につながりました。

このような状況にもかかわらず、多くのお客さまに資産運用をご継続いただいていることに感謝いたします。

2018年3月末から1年間のGMAの運用成果悪化は短期的な市場変動によるものであり、GMAが掲げる長期国際分散投資の有効性を否定するものではないと考えますが、助言者としてポートフォリオの強化など改善できることを着実にやっていく所存ですので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

GAIA株式会社 インベストメント・アナリスト 兼 ポートフォリオ・マネージャー 中城 和仁